

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2020年7月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2020年7月7日～7月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より0.4ポイント改善の▲49.6となった。

2017年9月以来35ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲51.2、当月と比べ1.6ポイントの悪化が見込まれる。

## 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2020年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2020年 8月～10月
業況	▲29.6	▲47.6	▲50.7	▲59.9	▲50.0	▲49.6	▲51.2
売上	▲28.7	▲50.0	▲53.7	▲55.9	▲55.8	▲48.1	▲53.5
採算	▲28.7	▲43.6	▲47.0	▲60.7	▲48.6	▲46.5	▲52.7
仕入単価	▲25.2	▲12.0	▲18.6	▲11.9	▲17.6	▲20.9	▲27.9
販売単価	▲4.3	▲12.1	▲14.2	▲16.5	▲12.5	▲11.6	▲10.9
従業員	28.7	19.3	13.5	15.0	10.3	13.2	13.9
資金繰り	▲10.5	▲21.8	▲29.8	▲37.1	▲25.7	▲25.6	▲25.6

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2020年 8～10月
建設	▲28.6	▲28.6	▲10.3	▲32.2	▲27.6	▲21.4	▲39.3
製造	▲17.9	▲34.5	▲39.3	▲58.6	▲59.4	▲64.5	▲64.5
卸売	▲25.0	▲42.3	▲53.1	▲46.5	▲27.3	▲22.2	▲18.5
小売	▲31.6	▲71.4	▲77.3	▲85.0	▲70.0	▲55.0	▲45.0
サービス	▲56.3	▲75.0	▲87.0	▲90.9	▲81.9	▲91.3	▲91.3

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事については繰越工事の消化により完工高は維持するも新規契約については若干の減少を見込んでいる。民間需要はコロナの影響により先行き見通し不透明感から後退局面にあるも小口改修工事は堅調に推移。 （総合工事）</li> <li>・コロナウイルスの影響による次年度受注動向が懸念される。（総合工事）</li> <li>・アフターコロナにおける各産業の心構えや変化への対応など商工会議所が中心となり各企業へ情報発信してほしい。今のところは新型コロナの影響は受けていないが、世の中全体、官も民も貧しくなると思われるので不安である。 （設備その他）</li> <li>・景気悪化による売上の減少及び客単価の下落。（建築）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自粛が解除されても新型コロナウイルスが収束していないので、取引先からの発注が少なく見通しが立たない。 （食料品）</li> <li>・コロナウイルスの影響による売上の減少は6月以降やや回復。但し、それ以前の需要減、市場の縮小に改善は見られない。（印刷・出版）</li> <li>・コロナウイルスとの共存の中、正直何も変化していない自分達（会社の仕組み）がある。少人数の製造業ではテレワークなど成し得ず、今後どのようにBCPを作成し、取り組んでいけばよいかわからない。（金属窯業他）</li> <li>・新型コロナの影響が秋以降から大きくなることが予想される。産休スタッフの補充になかなか良い人材が見つからない。資金面では国、道保証のおかげで当面心配はないがコロナの影響が長期化した場合は不安有り。（家具木材）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売先に新型コロナウイルスの影響が出る可能性への懸念。（飲食料品）</li> <li>・コロナウイルスの影響もあるが、前年度と同等の業況である。（機械鋼材）</li> <li>・コロナ禍による直接的な売上減はないものの、売上増は見込めずコストの見直しを検討している。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスの影響により売上減。（食料品）</li> <li>・7月1日よりサマーセールを開催しているが、来店客数が非常に少ないため売上が前年の50%以上ダウンで客足が回復するには時間がかかる。売上がアップさせる方策が見つからない。（衣服見回品）</li> <li>・新型コロナによる消費の落ち込み、来店者の減少。（その他）</li> <li>・7月に入り客足が戻ってきている。来店台数、売上数量等。しかしながら前年や例年の需要を期待できるほどではない（どうみん割で駅近くの店舗はレンタカー等多少好転気味）。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの発生で観光客の大減少に伴うホテル客の減少により、リネンサプライ業は大幅に減っている。前年度の7割減。 （理美容・クリーニング）</li> <li>・インバウンド及び道外客の回復が見込めず、この先イベント等もないことから市内マーケットも安価で推移。先行きは厳しい状況である。（ホテル・旅館）</li> <li>・テイクアウトの定着、タクトレ等周りの支援もあり売上が回復。元々インバウンドと無縁だったのがよかった。（飲食）</li> <li>・コロナとの共存下での事業継続安定化は非常に困難に感じる。一刻も早い市況回復を願うばかり。観光関連が動き始めてきたことは光明。（運送）</li> <li>・コロナの影響について、現在のところ発注の遅れ、業務量の減少は感じられないが第2波に備えテレワークに必要な設備の導入を進めている。（その他）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI2.6 ポイント改善、採算 DI13.3 ポイント改善、仕入単価 DI1.2 ポイント悪化、販売単価 DI3.4 ポイント改善、資金 DI7.2 ポイント悪化、従業員 DI5.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業 15 ポイント悪化、総合工事 7 ポイント、設備・その他 10 ポイント改善となった。今時点でのコロナの影響は、本社及び各現場の予防対策費用(社員へのマスク配布・各フロアの消毒液・体温計設置等) 程度であるが、社内及び協力業者に感染者が発生すれば本社及び全工事現場が休止状態となり甚大な被害が予想されるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI1.0 ポイント改善、採算 DI14.6 ポイント悪化、仕入単価 DI3.6 ポイント悪化、販売単価 DI2.8 ポイント改善、資金 DI15.3 ポイント改善、従業員 DI6.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.1 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、金属窯業他横ばい、印刷・出版 13 ポイント、家具・木材 11 ポイント悪化となった。当社主要資材のアルミの向こう 3 カ月の仕入単価が下がり採算性は向上するが、市場が縮小しているので売上の減少が続くと思われるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.1 ポイント改善、採算 DI5.0 ポイント改善、仕入単価 DI5.7 ポイント悪化、販売単価 DI12.2 ポイント改善、資金 DI2.6 ポイント悪化、従業員 DI6.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 40 ポイント悪化、繊維・衣服等 25 ポイント、食料品 35 ポイント、機械鋼材 13 ポイント改善となった。コロナ禍による直接的な売上減はないものの、売上増は見込めずコストの見直しを検討しているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI30.0 ポイント改善、採算 DI10.0 ポイント改善、仕入単価 DI15.0 ポイント悪化、販売単価 DI20.0 ポイント悪化、資金 DI20.0 ポイント改善、従業員 DI5.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 15.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 17 ポイント悪化、衣料品横ばい、その他 26 ポイント、自動車 33 ポイント改善となった。新型コロナによる消費の落ち込み、来店者の減少との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI7.7 ポイント改善、採算 DI8.2 ポイント改善、仕入単価 DI9.9 ポイント改善、販売単価 DI1.4 ポイント改善、資金 DI19.2 ポイント悪化、従業員 DI17.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 9.4 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング、ホテル・旅館、その他、整備業、運送横ばい、飲食 50 ポイント悪化となった。売上は徐々に戻りつつあるが前年度比としては採算の取れる状態とはほど遠いとの声も寄せられている。</p>